

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士 (医 学)      氏 名 木村 孔一

	主査	教授	渥美	達也
審査担当者	副査	教授	西村	正治
	副査	教授	福田	諭
	副査	教授	秋田	弘俊

## 学 位 論 文 題 名

気管支喘息における副鼻腔病変の評価、並びに関連する因子、  
バイオマーカーに関する研究

(Studies on the evaluation of sinus involvement and its related factors and biomarkers in  
asthmatics)

副鼻腔病変は気管支喘息における重要な関連因子の一つであり、上下気道共通の気道炎症の存在が考えられている。申請者らは、喫煙者を含めた集団においても、上下気道に共通する気道炎症が存在すること、喫煙の有無による気流閉塞への進展の相違等を示した。また、喫煙者を含む集団における好酸球性気道炎症の評価に、血清ペリオスチン値が有用である可能性を示し、また、健常者と喘息患者での血清ペリオスチン値の関連指標を検討した。

審査にあたり、副査の福田教授からは、副鼻腔炎に対する治療の有無、副鼻腔の部位別の検討、副鼻腔炎手術後の喘息重症度の変化について質問があった。副査の秋田教授からは、副鼻腔 CT の最適な撮像条件、喫煙者と非喫煙者の分類方法、喘息患者における喫煙による特定の分子への影響についての質問があった。主査の渥美教授からは、エントリーの基準である喘息の定義、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症等の除外の有無、LMS 法以外の副鼻腔陰影評価方法の使用、喘息のバイオマーカーの役割についての質問があった。また、喘息の定義の記載や、統計量の記載方法について指摘があった。副査の西村教授からは、健常者における血清ペリオスチン値の関連因子が好酸球とは独立した結果であったこと、過去の報告とは対照的な結果であったことをどう考えるかとの質問があった。申請者は自己の研究データや文献的考察に基づいて、概ね適切に回答した。

この論文は、喫煙者を含めた喘息患者においても上下気道に共通する好酸球性気道炎症が存在すること、喫煙による気流閉塞への影響の相違、血清ペリオスチン値の有用性ならびに関連因子を明らかにした点において高く評価され、喘息患者の病型分類や治療への応用が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。